

## 訪問実習感想文

### ○押浜医院

〈訪問診療〉

- ・訪れた患者さんの中には、死んでもいいと言う人もいた。  
自分は最初そのことを悲しいと思っていたが後からその患者さんたちの事情を知り、死に直面した際には、死に対する考え方が変わってくるのかなと思いました。  
介護をしている家族が明るい。  
この20年で介護や予防医療に対する考え方が大幅に変わったと感じました。

### ○柿添病院

〈訪問診療〉

- ・高齢の患者さんと接するとき、耳元で話すこと、そして笑顔で接することが何よりも大事だと感じました。実際に患者さんと接する中で患者さんの笑顔がとても印象的で話している私たちも笑顔になれると思いました。
- ・初対面の患者さんでも今回学んだユマニチュードで会話することができたと思います。でも、先生たちのような対応とは全然違った。さりげない患者さんとのふれあいや笑顔が特に違うと感じました。
- ・おじいさんとおばあさんはとってもお話上手。  
目を見て、優しく触る・話しかける。ポジティブなお話をする。  
「あったかかねー」は最高の褒め言葉です。  
心を開いて話してくださる技術がある。

〈ケアマネ訪問〉

- ・患者さんの需要や医者が望む状態などを考慮し、最善の治療やリハビリを施すことができればいいと思いました。
- ・なぜ帰りたいのか、その人の人生を考える大切さを感じました。
- ・施設と家での生活には違いがあって、人それぞれ家の想いがあると感じました。

〈通所リハ〉

- ・高齢者は体が弱いので気をつけるべきことが多かった。  
患者さんとうまくコミュニケーションができるようにならないといけないと感じました。
- ・送迎バスのドライバーのテクニックがすごかったです。

### ○青洲会病院

〈離島医療〉

- ・はじめて大島に行ったが、行くだけでも大変で島から移動する時は天候も重要で、足腰が

悪かったり体力がないような人には難しいのかなと感じました。医師が一人常駐しているが、夏休みということで代わりの医師が来ていたが、初めて来たため患者さんについて分からないと話していた。そういう時には看護師の役割が大きくなるなど感じました。

- 医者が一人しかいないため診療科目が限られる。  
重症患者がでたら治療までに時間がかかる。
- 患者さんはあまりおらず、若い人たちは診療所を利用せず、船で病院を利用しているらしい。  
風力発電を近くで見ると、とても早く回転していてすごかったです。  
診療所の医者が全ての病気を診られるわけではなく診療科が限られているので、本土との連携が必要だと思いました。
- 施設があまり整っているとは言えなかった。  
耕運機で来院された方がいた。  
専門医としては、他科の患者さんは難しいだろうと感じました。
- 地域によって医療設備等の環境に差があるため、環境に合わせた医療の提供、もしくは一定の環境を整えることが必要であると感じました。

## ○平戸市民病院

〈訪問診療〉

- 訪問診療の利点として患者さんを生活について実際の診察では分からない（時間がかかる）ことが、すぐに分かるということが分かりました。例を挙げれば薬や食生活です。  
病院での診療も訪問診療も私が見た限り患者さんとよく話し、生活を考えていくという概要的なことは同じだと感じました。
- 患者さんから情報を聞き出すことが患者さんの容態を見る上で重要だと改めて感じました。  
しかし、その反面、難聴があったり言葉が聞き取りづらかったりと困難が大きかった。  
細かいことから様々な疾患や病気の問題を医師の方などが考えており、本当に素晴らしいと思います、自分も将来それができるだけの力を身につけたいと思いました。
- 娘さんやお嫁さんとか、患者さんの面倒をしっかりとみることができている人がいて、家の中がきれいな患者さんは全身状態が良いことが多い。  
日記をつけることなど生きがいをもっていると元気。
- 高齢化の抱える問題は深刻である。  
対象に限らず、家族ケアを見据えた視点が大切である。  
対象に応じたコミュニケーションのとり方の工夫が必要。  
短時間で対象の全体像を促える必要がある。  
経済状況のアセスメントも必要。  
対象のニーズに応じた社会資源の活用が必要。  
独居の高齢者が孤立化しない工夫を考える必要がある。  
暮らし＝生活に根ざしたアセスメントが必要。

〈訪問看護〉

- ・看護師や介護師が明るくて驚きました。  
身近に感じられた。手際が良かったです。

○生月病院

〈訪問看護〉

- ・毎日続けるとなると大変だと思いました。